

滑川地区活動報告

地域おこし協力隊 滑川地区担当 : 松井駿作

〈初年度〉

滑川地区の集落支援員である井上さんをはじめ、地域の方と共に、今後の補助金等を申請するための創生会議「滑川清流クラブ」を結成。市の「東温市頑張る中山間地域等支援事業補助金」や「東温市移住就業体験プログラム実施支援事業補助金」等の受け皿として機能し、協力隊活動のメインとする。

初年度の取組み

- ①案内所内で滑川の清流をウリとした「清流コーヒー」の販売のための商品開発を行う。
- ②情報発信のためのパソコンをはじめとする備品・周辺機器を購入する。
- ③滑川地区内に無人販売所を設置し、地域の方が作った野菜などを販売する。



溪谷案内所 滑川清流ハウス外観

●滑川溪谷の入り口駐車場にある売店を「溪谷案内所」としてリニューアルオープンし、来訪者に案内や休憩・喫茶スペースとして利用してもらおう。またここで、滑川地区の湧き水を使った「清流コーヒー」を販売し、滑川地区の宣伝・広報活動に努める。

●情報発信のためのツールを購入。また溪谷案内所「滑川清流ハウス」のフェイスブックページも作成し日々の情報を発信していった。

●滑川地区内に無人販売所「ほぼ滑川」を建設。地域の方々が作った野菜やシキビ等を販売し、収益を上げる事に成功。また建設には滑川地区で大工経験のある方に棟梁を依頼し、清流クラブのメンバーも手伝いながら「地元民で作る」事にこだわって建設。建設後は野菜の販売だけでなく、地元の出品者の憩いの場としても定着。また自分たちが作ったものがお金になる事で出品者の意欲の向上や自信にもつながり、「生きがいの創出」にもつながった。

**初年度の活動を通して、滑川地区への来訪者の増加・外貨を獲得できる
システム形成・滑川地区のファンの獲得へ繋げることができた。**



改修後の滑川清流ハウス

完成した無人販売所「ほぼ滑川」



その他の事業として・・・

①種まきから始める“手作りそばうち体験講座”

そばと種まき作業体験を実施。滑川地区の使われていない田んぼを場畑にし、参加者と共に獣害対策用の電気柵の設置や種まき作業を実際に行う。その後育ったそばの実を使用して滑川生活改善センターにてそば打ち体験を実施。

そば打ち体験はその後も随時開催。東谷小学校の遠足のイベントにも組み込まれ、区長(当時)の井上さんの指導の下そば打ち体験を行っている。

②溪谷案内看板改修事業

河原学園デザインアート専門学校の生徒に制作を依頼。学生たちを滑川に招待し溪谷を案内。制作は3班のグループ制作とし、清流クラブ・産業創出課の審査の元コンペティションを行い一番よいものを採用する形式をとり、クオリティの高い看板に仕上げてもらった事ができた。学生と地元の交流も行う事ができた。

新しくした案内看板



③稚魚放流イベントを通じた滑川PR事業

東谷小学校の全校生徒参加行事として、滑川溪谷を見学後、清流の森の前の川に稚魚を放流する体験活動を実施する。その後昼食時に滑川地区の米でおにぎりを作り、試食を行う。そして、校区の児童に滑川の良さを知ってもらうとともに、単発のイベントに終わらせないため、放流体験後、「放流体験者証(仮称)」を児童に渡し、家に帰って保護者に渡してもらうようにする。「放流体験者証」には釣りのやり方やルール、他の体験活動の紹介などを記載し、親子で安心して遊び(釣りなど)に来ることができる魅力ある地域であることをPRし、継続的な交流や集客に繋げていく。また地元の農家の方とのふれあいを通して、農業や食に対する関心を深めてもらう。

これらの活動を通じて・・・

- そば打ち体験の事業化により来訪者の増加・ファン獲得の他、地元の小学校との結びつきを強くすることに成功した。
- また、各事業の合間に、滑川清流コーヒーの出張販売を行い、滑川地区のPR活動に努めた(母親大会・あさつゆマルシェでの試飲会etc...)

〈二年目〉

初年度の活動を軸とし、各事業の補足やブラッシュアップを
メインに活動していった。

二年目の取組み

- 滑川清流ハウスのブラッシュアップ。前回の事業でできなかったハード面の修繕を行い、渓谷への来訪者の更なる増加を目指す。また、「清流コーヒー」の品質向上
- 海上地区の空き家の改修・整備。海上地区にある空き家を改修し、イベントハウスとして利用する。利用内容としては個人利用の他、料理教室やワークショップといったイベント利用等も出来るようにする。
- 利用する方は道や空き家周辺の草刈り等をしてもらい、その対価として空き家を利用可能なものとするよう検討。
- 無人市の充実と集客力アップ。無人市「ほぼ滑川」の隣に休憩所の設置ウッドデッキ仕様の休憩所を設置して立ち寄って休憩できる場所を設置し、地元の人との交流や、お客さん同士の繋がりができることにより、リピートしてもらえようとする。

●前回の事業でできなかった清流ハウスのハード面の修繕を行い、渓谷への来訪者の更なる増加を目指す。また、「清流コーヒー」の品質向上を目指し、市内でコーヒー豆の焙煎を行っている「Mountain Stream Coffee House」様に滑川の湧き水に合うよう独自に焙煎・ブレンドしていただき、より美味しい清流コーヒーの開発を行った。

●海上地区にある空き家(アトリエ風別荘)をイベントハウスとして利用。個人利用の他、ワークショップの開催や劇団の稽古場・映画のロケ地として現在多くの方に利用していただいている。

●無人市「ほぼ滑川」の横にウッドデッキを設置。地元の方だけでなく来訪者の方々にも休憩スペースとして活用しやすくなった。滑川地区の交流の拠点として多くの方が毎日立ち寄っている。また、今回も昨年同様地元の人たちの協力によって完成させた。

●滑川地区5箇所には渓谷までの道のり看板を設置。滑川渓谷までの道は狭く、来訪者の中には途中で引き返してしまうかたも少なくないので、渓谷までの距離数を記した看板を設置。これにより安心して来訪者が渓谷までたどり着けるようになった。



その他の事業として・・・

①滑川の自然を遊ぶ！ みんなで体感、いにしへの暮らし！

●子供主体で原始人の小屋をイメージした小さな小屋(ティピーテント)をいくつか建て、集落を作る。小屋には滑川で採取した葉や木、石などで飾り付けをしたり、それらで衣装をつくったり、打ち鳴らせる楽器のようなものも作り、5感を刺激するワークショップを行う。昼食は、滑川の食材をつかって一緒に料理して食べていただき、滑川の魅力をさらに感じていただく。昼食後は、焚き火を囲んで滑川の見どころを紹介し、その後は自由に散策してもらう。



これらの活動を通じて…

●二年目の活動では、昨年のブラッシュアップを積極的に行い、更なる流入人口の増加に繋げていくことができた。道のりを記した看板も設置し、安心して訪れることができ、リピートもしやすい環境づくりを行った。また、新聞やテレビ等のメディアへの露出も多くなり、知名度の向上にも繋がっている。

●昨年に引き続き市内外のイベントに、積極的に清流コーヒーの出店を行い、随時滑川の魅力をPRしている。

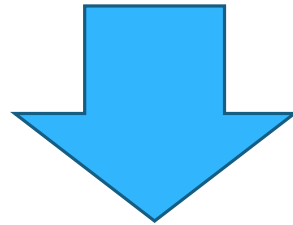
〈三年目〉

楓荘のブラッシュアップ、任期終了後以降も滑川地区で行えるイベント・行事の創設をするべく活動を行っている。

●「楓荘」の用途を宿泊ができる施設へ変更するため、以下の改修工事を行う。

・台所不燃工事 ・消防設備工事 ・非常灯工事 ・水道滅菌工事

●簡易宿泊施設の約款または利用規則の制定し、「楓荘」のリーフレットに記載し、宿泊利用する顧客に提示・説明する約款または利用規則を策定。マニュアル化することで利用者への迅速な説明、未然のトラブル防止を行う。



●簡易宿泊施設とすることで、顧客層の広がり、清流クラブへの直接的な収益の向上が見込まれる。また、「楓荘」の整備や利用規則の策定には、地域住民だけでなく、協力者（有識者や事業体など）と連携しながら行っていくため、滑川地区に訪れる関係者の増加が見込まれ、関係人口増加に伴い、情報発信の機会も増え、結果として滑川地区の魅力を伝える事ができる。

その他の事業として・・・

①地域内外の人々で作る、棚田を利用したどろんこサッカーイベント開催事業

滑川地区清流の森横の田んぼでどろんこサッカー大会開催。同時に田んぼで行うビーチフラッグ大会や子供用フリー田んぼも開設。また、当日は猪肉カレーの販売も行い、大人から子どもまで多くの方に参加いただいた。イベント終了時に行ったアンケートでも軒並み好評で、今後滑川地区の定番の行事に発展していくよう今後も運営・周知作業に努めていく。



その他行ったイベント

滑川ブックキャンプ

滑川清流の森でブックマルシェを開催。本屋さんや市内外の飲食店を募りイベント開催。当初の予定の倍近い人が集まった。運動場にテントを張り、その中で飲食や読書をする事ができるようにして多くの人でにぎわった。読み聞かせや絵本のワークショップも開催し大人から子どもまで幅広い年代の方に楽しんでいただけるイベントとなった。

※滑川清流の森はイベントやワークショップの会場としても利用できる事が少しずつ周知されてきつつある。

任期終了後に向けて…

- 任期終了後(来年4月以降)は滑川地区に定住予定。(現在住んでいる近藤さん宅を引き続き借り入れて生活)
- 任期中の様々な活動を通して広報活動やチラシ作成・デザインの重要性を再認識。もともと心得のある分野だったため任期終了と共に「まちのデザイン屋さん」として起業・独立。個人事業主としての活動を開始予定。